

令和7年度第1回史跡根城跡整備活用検討委員会 議事録

日時 : 令和7年10月8日(水) 10:00~12:00

場所 : 八戸市博物館体験学習室

出席者

委員

出席6名 工藤竹久委員長 熊谷隆次委員 倉原宗孝委員
宮野則彦委員 野沢浩司委員

欠席1名 北野博司副委員長

指導・助言

加藤渉文化財保護主査(青森県教育庁文化財保護課)

委員会

社会教育課 渡参事

博物館 小保内館長 佐々木副館長 市川主査 高橋主事 中村専門員

設計支援 有限会社ウッドサークル

次第

1. 開会
2. 会議
 - (1) 令和6年度事業報告
 - (2) 令和7年度事業計画
 - (3) 史跡根城跡防災設備改修(第3期)
 - (4) 樹木伐採工事・園路整備工事概要
 - (5) 本丸主殿改修工事進捗
3. 閉会

会議資料

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 委員名簿

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 席図

資料1 令和6年度事業報告

資料2 令和7年度事業計画

資料3 史跡根城跡防災設備改修(第3期)

資料4 樹木伐採工事・園路整備工事概要

資料5 本丸主殿改修工事進捗

八戸市博物館条例抜粋・八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会規則

・前回会議議事録訂正

◎事務局：前回会議議事録の内容を訂正させていただきます。事前にお送りした前回会議議事録の2ページをお開きください。この冒頭の宮野委員の発言箇所の上から5行目に訂正がございます。事前にお送りした前回会議議事録では「～③銅板・防水防湿シートの上端は土間仕上げ面から10cm上にすることの3点をご提案しました。」となっておりますが、これを「～③銅板・防水防湿シートの上端は土間仕上げ面から5cm程度下にすることの3点をご提案しました。」と訂正させていただきます。お詫び申し上げます。

2. 会議

(1) 令和6年度事業報告

・整備 本丸復原建物改修工事

○宮野委員：納屋3の三和土の入れ替え工事後に、湿度環境の変化はありましたか。確か工事前は結構湿気があった印象があるのですが。

◎事務局：納屋3は温湿度計を設置していないので、実際の数値に変化があったのかは把握していません。体感としては特に差は感じません。温湿度測定をしている建物は3棟ありますが、これは内部に復原展示がある建物を優先しています。納屋3は内部に復原展示が無いので、今回は測定の対象にしませんでした。

○宮野委員：分かりました。

・活用 SNSによる広場情報発信

○倉原委員：SNS閲覧者数の集計について質問があります。この集計では10月の閲覧者数が多く出ています。これは何が理由なのか分析できているのでしょうか。

◎事務局：10月の閲覧者数が多いのは、単純に博物館の企画展示・特別展示やシンポジウムなど告知によるものではないかと考えています。

○宮野委員：年度ごとの閲覧者数について質問です。史跡根城の広場のフェイスブック閲覧者数をみると、令和4年度が約16,000人、令和5年度が約8,000人と半減しています。これは何か原因があるのでしょうか。

◎事務局：昨年の会議でもご説明いたしましたが、コロナの5類移行後、来場者数は落ち着いてきています。この結果が、反映されたのではないかと考えています。

○宮野委員：発信した内容に変化はありませんか。

◎事務局：変化ありません。その時々イベントの案内や、根城の広場内の日常のことなどについて発信しています。

○宮野委員：分かりました。

- ◎事務局：因みにですが、令和4年度には複数タレントの方が、根城にお越しになりユーチューブやテレビの放送がありました。その後、ファンの方が根城にやってくるということがありましたので、これも影響があったのかもしれませんが。
- 工藤委員長：そういう露出も影響しているのかもしれませんがね。

(2) 令和7年度事業計画

・整備 史跡根城跡昆虫相調査等業務委託（市単独事業）

- 工藤委員長：昆虫調査を始めたようですが、具体的な虫の種類などは分かっているのでしょうか。また、害虫もいるのでしょうか。
- ◎事務局：今年の4月から昆虫相調査を始めました。調査対象にした建物は、高床建物の主殿・奥御殿板蔵と竪穴建物の工房・鍛冶工場の4棟です。この4棟はいずれも建物内に復原展示があるので、優先して調査を行うことにしました。
- 春先、4・5月は、主殿で多くのヤマトゴキブリが見られました。この季節がヤマトゴキブリの産卵期だということです。ゴキブリの卵は主殿の小屋裏か縁側下部にあるようで、他の建物ではあまり確認されませんでした。主殿は、続き間の周りに一間幅の縁側が廻る間取りをしています。ゴキブリは主殿内でも、小屋裏と縁側部分のみ多く確認されました。つまり続き間・部屋部分ではゴキブリは殆ど確認できませんでした。調査業者によると、ゴキブリは成虫になると飛んで、屋外から侵入してくる。しかし屋内に入ると歩いてのみ移動するので、敷居を越えて続き間に入ることができないのではないかという所見でした。またゴキブリは飛べるといっても行動半径は狭いそうです。特に卵を持つメスは羽が退化し、行動範囲が狭いそうで、逆に言うと、ゴキブリが多く見つかった縁側の近くに卵があるのだろうと分析されていました。
- 竪穴建物2棟では、4月から6月に大型のカマドウマが多く確認されました。この2棟では、ゴキブリホイホイぐらいのサイズ・形状のトラップを使用していますが、トラップの粘着面全面に隙間がないぐらいにカマドウマが捕獲されました。他に、竪穴建物ではトラップにネズミがかかっていました。
- 建物の構造により、確認される昆虫に明確な傾向がみられました。高床建物では飛翔性昆虫、竪穴建物内では歩行性昆虫が多く確認されました。ちょっとした床の有無で入ってくる昆虫は全然変わるということが分かりました。
- 現時点で、建物や復原展示に影響を与えるような、明確な文化財害虫は確認されていません。また、目立った獣害虫害も今のところございません。
- 倉原委員：ゴキブリが敷居を越えないというお話しは面白いですね。この理由はなぜなのかわかっているのでしょうか。例えば縁側の環境が快適なのかとか、あ

るいは能力的に敷居を越えることが出来ないなどのことです。これがわかれば駆除や施設管理の方法も違ってくるのではないのでしょうか。

◎事務局：理由はまだ把握できていません。ほぼ行動範囲が小屋裏と縁側にだけ限定されるようなので、本丸主殿改修工事に先立ち、この範囲を重点的に燻蒸し、駆除を目指すべきではないかと考えております。

○倉原委員：緊急性のある害虫ではないけども、駆除はした方が良いでしょうということでしょうか。

◎事務局：おっしゃる通りです。ヤマトゴキブリはいわゆる文化財害虫ではありませんが不快害虫です。今以上に増えるとフン害により建物・展示の汚損も発生すると思います。主殿改修工事に伴い、屋根を解体しますが、それに先立ち一度全面燻蒸し、可能な限り個体数を減らすべきだと思います。

○倉原委員：わかりました。

◎事務局：本日ご欠席の北野委員からもご質問をいただいていますので、ここでご報告します。北野委員からは、「①委託内容は調査のみなのか、対策まで委託内容となっているのか。②現在の具体的な被害について知りたい。」というご意見をいただいています。また、「今後対策を考える際には何を護るかを明確にする必要がある。昆虫は環境マーカーなので調査結果は内容を精査して活用にも生かせるの良いのではないか」というご意見も頂戴しています。

これについて回答します。まず①委託内容ですが、現在は昆虫相調査の結果を月例報告していただいています。また、これに合わせ、防除対策の提案もお願いしています。具体的には温湿度環境の改善・清掃の強化・殺虫剤散布などのご提案をいただいています。また、②現在の具体的な被害については先ほどお話しした通りです。現時点で明確な実害はありません。

なお、この昆虫相調査委託は、今年度から開始しました。今後年間データを取得したうえで、防除などの方針を決め、今後の管理活用に繋げたいと考えております。

・活用 みんなで大銀杏を元気にしよう！プロジェクト

○宮野委員：去年もこのイベントを開催されていましたが、参加されている中学生は、自ら希望して参加しているのでしょうか。

◎事務局：参加生徒は学校さんに選んでいただいています。

○宮野委員：他の遺跡の話ですが、復原竪穴建物の屋根や床の補修を中学生にお願いしたことがあります。そのことを市民から、「中学生に労働させているのではないか」と批判されたことがあったので気になりました。

・追加事業 史跡根城跡樹木伐採等業務委託

○宮野委員：伐った木を活用するという考えはあるのでしょうか。なにか記念品のようなものを作って見学者に配るなどのことはお考えでしょうか。

◎事務局：樹木伐採等業務委託については、この後の案件4で詳述します。史跡内で伐った樹木の活用については、ハード・ソフトの両面で検討しています。まず、ハード面ですが、伐った木はそのままウッドチップにして、園路の材料にする予定です。今年度は樹木伐採工事だけを実施しますが、次年度以降は樹木伐採と園路整備を並行して行う予定です。この新規園路の仕様はウッドチップ固化舗装を想定しています。この材料に伐採木をそのまま使用したいと考えています。

次にソフト面ですが、余った伐採木などは、市民の皆さんに自由にお持ちいただいても良いのではないかと考えています。他の城館遺跡の事例ですが、遺跡整備で伐採した木を、薪やウッドチップにして市民の皆さんに自由にお持ちいただいたという事例があります。

また、これは市内の事例ですが、記念品の作成や配布についても検討しています。昨年、市内の小学校でシンボルになるような桜の木を伐採した際に、この伐採木をチップにし、3Dプリンターで写真フレームに加工し、児童に配るということをしたそうです。なにかこういう記念品を作り、ボランティアガイドさんや史跡保存会の皆さんにプレゼントするのも面白いのではないかと考えています。

○工藤委員長：会議資料では、今年度の工事で、三日月平場付近の85本を伐採し、40本を強剪定すると書いています。これはこの範囲にある全ての木に手を付けるということでしょうか。

◎事務局：この範囲にある全ての樹木を伐採ないし強剪定します。案件4で詳述しますが、基本的に市道にかかる木は全て危険木として伐採します。また、道路にかかっていない樹木は積極的に残しますが、落枝の危険性がある高木などはこのタイミングで枝を払うなどします。

○工藤委員長：沢山の木を伐るので、雰囲気は違って来るかもしれませんね。ですが広場全体の中でみれば、まだ極めて限られた地域しか手をつけていないということですよ。

◎事務局：史跡内の測量が終わったおかげで、広場内の樹木の位置と本数がほぼ把握できました。木が密集して近づけない西ノ沢の西斜面だけ把握できていませんが、ここを除くと広場内にはおおよそ1020から1030本の樹木があることがわかりました。今年度はそのうちの125本を対象にしますが、今年は例外的に伐採本数の比率が高い年度になると認識しています。

公有地に隣接する道路にかかる樹木や、お城の法面に生えている樹木は危険木・支

障木として伐採します。今年度はこの条件に含まれる樹木が多いので、結果的に伐採木の比率が上がりました。ここ以外の地区に生えている樹木の多くは、30年前の第1次整備で植えられた樹木です。これら公園植栽は、平場にあるものが多いので、今後はここまで伐採をすることはないと予想できます。

○工藤委員長：わかりました。伐採や維持管理はずっと続いていくことです。計画的に進めていただきたいと思います。

◎事務局：承知しました。

・その他 便益施設修繕検討

○工藤委員長：便益施設の修繕検討についてです。これはこれまで話題にあがっていませんでした。これは中館のどの便益施設のことでしょうか。

◎事務局：申し訳ございません。会議資料の書き方が不足しています。会議資料では「便益施設として設置している中館の老朽化が進行しており、市民から修繕の要望がある。」としていますが、これは「便益施設として設置している中館四阿の老朽化が進行しており、市民から修繕の要望がある」が正確な表現です。訂正させていただきます。

中館には中館四阿と呼んでいる休憩施設があります。木造平屋で、身舎が草葺き・下屋は板葺き、柱は掘立柱で、コンクリート土間の建物です。この下屋柱とコンクリート土間の取り合い部分が腐朽し痩せています。

目視による所見では、虫害ではなく経年劣化による腐朽です。まだ科学的な調査は行っていませんが、下屋柱を強く押しても、まだ十分強度はありますし、変形しません。また、打音調査でも、内部が空洞化している感じはありません。すぐに倒壊する危険性はありませんが、市民の方から、あの建物は大丈夫ですかとご意見をいただいています。これは優先順位を上げて調査・修繕をしたいと考えています。

○工藤委員長：わかりました。

◎事務局：また、北野委員からはこの件について、「低コスト・長寿命化・市民共同をコンセプトに入れることができないか。」というご意見をいただいています。これにつきましては、直近の機会に調査を実施し、修繕方針を決めます。また、修繕の内容によっては、低コスト・長寿命化・市民共同についても検討して参ります。

・活用 小中学生のための城歩き講座「お城へ行こう！」(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)

○工藤委員長：今回は非常に参加者が少なかったようです。これは例えば他のイベントと重なっていたなど、理由はわかっているのでしょうか。

◎事務局：たしかに6月下旬から7月にかけての時期は、近隣の小中学校の部活動や愛好会の大会と日程が重なっています。

ここ数年、城歩き講座の開催日は、曜日を変えたり、時期を変えたりと色々試験的に開催して参りました。その中で話題にあがったのは、八戸市内の子どもたちは一定数参加してくれるのですが、連携先の三戸町の子どもたちの参加がほぼ無いということでした。この講座は、三戸町教育委員会と連携して行っていますが、三戸町の担当者からは、お城に関心ある子どもたちは、既に一度参加してしまっていて、また参加したいと思っていないのではないかとお話しされていました。

○倉原委員：学童や子どもが集まる場所に呼び掛けると良いのではないのでしょうか。

◎事務局：このイベントは小学校4年生から中学生を対象にしたものですが、八戸市内の対象の全学年にチラシを配布しています。他に館のSNSでも発信していますが、今後は学童などにも発信できるよう検討していきたいと思います。

○宮野委員：小学校の部活には歴史クラブなどがありますが、そういうところに声をかけても良いのではないのでしょうか

○事務局：市内では歴史クラブはかなり少なくなっているようです。あとは社会科の先生方に声をかけてみるとかでしょうか。

○倉原委員：学校の郷土学習の時間とかでも使ってもらえそうなイベントですけどね。八戸ではどうなのか分かりませんが、他のところでは、学校側からこういうイベントの情報が欲しいという声があがることもあります。

◎事務局：発信・呼びかけの部分も、もう少し拡充できるよう考えて参ります。また、この件についても北野委員からご意見をいただいています。北野委員からは「①集客の改善が見込めないのであれば費用対効果の面から、継続の可否を再検討すべきではないか。②城歩きにこだわる必要があるのか。南部氏ゆかりの地、史跡整備の現場体験に食を組み合わせるなど、企画力が問われているのではないか。」というご意見をいただいております。

本講座は、子どもたちに城跡を歩く臨場体験を通じ、中世・近世の城館の見方や暮らし、あるいは発掘調査や復原の過程を知ってもらうことが目的です。埋蔵文化財の活用という観点からも、この城歩き講座自体はぜひ継続していきたいと考えております。ただ、その企画内容を検討する余地はあると事務局も認識しております。

次年度は企画を一時中断し、実施内容や関連城館との連携の仕方などについて再検討したいと考えています。

○倉原委員：子どもたちにどんなことしてみたいのかを聞いてみても良いのではないのでしょうか。

- ◎事務局：子どもに話を聞くという発想はありませんでした。検討します。
- 工藤委員長：これは親子枠で参加するイベントには出来ないでしょうか。
- ◎事務局：現在の城歩き講座は、子ども向けのイベントとしていますが、実際には保護者の方も同伴されていますので、親御さんにも解説しています。事実、熱心な親御さんもいらっしゃるって、子供からの質問対応よりも、保護者の方の質問対応に追われることもあります。
- 参加者人数を増やすという意味では、希望者を子どもに限定しないというのは一つの手だと思います。ただ、年齢層を広げると、解説や資料作りが大変になります。やはり子供向けのものと大人向けのものでは、解説の内容が変わってきます。

(3) 史跡根城跡防災設備改修(第3期)

- 工藤委員長：今年の工事で防災設備改修工事は終わりですか。
- ◎事務局：今年度工事で完了です。
- 工藤委員長：配管・配線の新設で60cmの掘削工事があるようですが、盛土範囲内で工事できるのでしょうか。また、掘削工事には立ち合いをするのでしょうか。
- ◎事務局：掘削時には館学芸員が立ち合いします。また、工事範囲の盛土については、当初整備の工事書類がなかったため、厚さが分かりませんでした。このため、本工事の設計に先立ち、二ヶ所ほど試し掘りをし、盛土厚さを確認しました。二ヶ所とも60センチ以上の盛土厚があったので、工事は可能だと判断しました。
- 工藤委員長：施工業者さんには遺跡内の工事であるということをお伝えして、意思疎通しながら工事を進めて下さい。
- ◎事務局：承知しました。
- 野沢委員：防災訓練はどのようにしているのでしょうか。
- ◎事務局：ご質問ありがとうございます。実は北野委員からも同様のご意見をいただきましたので、合わせてご回答いたします。
- 北野委員からも、「防災施設整備は進んでいるが消火訓練・避難訓練・AED訓練など、ソフト面の取り組みはどのように進めているのか。そして、指定管理者が独自でやっているのか。防火訓練はもっと見える化して、場合によっては市民を巻き込んでイベント化してもいいのではないか。史跡への愛着を育む活動と位置付けていくといいのではないか。」という意見をいただいております。
- 広場の防災等の訓練は、指定管理者が主体となり実施をしております。消火訓練・避難訓練は文化財防火デー等に合わせ年2回行っています。また、AEDと救命講習は、管内の消防署主催の講習等、年1回は受講するようにしています。また、こうした訓

練の取り組みの発信ですが、これまでは主にマスコミに取材していただき、その放送を通して発信しています。自主的に SNS で発信することもあります。これは毎回発信しているわけではございません。今後、イベント化をする可能性も含め、指定管理者と協議していきたいと思っています。

○野 沢 委 員 長 : この地区の消防団は9分団2班・3班です。その方々にも声掛けして、新しくなった設備の状況を把握していただければどうでしょうか。消防団の皆さんも設備の位置や作業方法が分かれば、より早く対応できると思います。

◎事 務 局 : 広場にも確認し、消防団とも連携してまいります。

○工藤委員長 : 今回の防災設備工事を紹介する意味でも、消防訓練をイベント化してお披露目するのも良いかもしれません。でも、文化財防火デーのあたりは寒いので、水を出すのは現実的ではありませんかね。

◎事 務 局 : 1月には水は出しません。水を出す訓練は10月か11月頃にします。

○工藤委員長 : これまでの工事の見える化を図るという意味でも、訓練の発信・イベント化は検討してみてください。

◎事 務 局 : 承知しました。

(4) 樹木伐採工事・園路整備工事概要

○工藤委員長 : 今年度の伐採対象にはスギが多いというお話でした。ただ、スギも全ては伐らず、何本かは残していくということでしょうか。

◎事 務 局 : 生物多様性維持という意味でも、皆伐はせず何本かは残します。

○工藤委員長 : 三内丸山遺跡でも遺跡の端の方にカラマツを残しています。カラマツ自体は、縄文時代に無かった木なので伐るべきではないかという意見もあがりました。ただ、遺跡内から隣接する自動車学校が見えてしまうということで、結果的に残しました。植栽管理は難しいですね。色々なバランス考えながら進めて下さい。

◎事 務 局 : ありがとうございます。現地を見ながら1本1本考えることが大事だと思います。根城でも、管理のことを考えると法面の木は全部伐ってしまいたいですが。ただ、史跡内外の景観を考えると、法面の上の方の木はあえて残し、目隠しとして活かすべきだろうと判断しました。一つの理屈だけで簡単に木を伐ってしまうのではなく、複眼的な視点から残す伐るの判断をしていきたいと思っています。

○工藤委員長 : 城を守っていくという意味でも、体制作り・基準づくりが大事ですね。担当者が同じ基準で城を守っていけるような方針づくりと植栽管理をお願いします。

◎事 務 局 : 承知しました。

(5) 本丸主殿改修工事進捗

- 工藤委員長 : 主殿改修工事のワーキング会議には、熊谷委員にも参加していただいています。熊谷委員からなにか意見はございますでしょうか。
- ◎熊谷委員 : 事務局からもご説明いただきましたが、主殿の当初整備から30年の時間が経ちました。この30年の間に青森県史編纂や八戸市史編纂などが行われまし、全国でも戦国期研究が大きく進みました。会議では、主殿の改修について色々議論していますが、これら研究の進展を上手く取り込んでいると思っています。近年の研究成果を表御殿という重要な建物に反映できそうで、とても楽しみにしています。
- 工藤委員長 : ありがとうございます。近年の研究成果を、根城の整備・展示に反映できる良い機会になると思います。今後も検討をお願いします。
- ◎事務局 : 承知しました。
- 工藤委員長 : 指導機関である青森県さんから何かご意見はございますでしょうか。
- 青森県 : 計画に沿って進めていただければと思います。また、なにか障害が生じた場合は、都度、県や国に相談していただければと思います。
- ◎事務局 : 承知しました。

・次回会議

- ◎事務局 : 次回会議は令和8年2月を予定しています。

以上